

## ベトナムの2026年1-3月期GDP成長率は7.83%



## 《高成長を実現する好循環が継続中》

ベトナムの2026年1-3月期のGDP成長率（実質の推定値ベース、前年同期比増減率、以下同様）は7.83%だった。2026年1-3月期から基準年が2020年に変更されたため、GDPの数値が大きく変更されているため、本レポートはGDP成長率を中心に報告させていただく。

農林水産業のGDP成長率は3.58%で、過去6四半期の実績に比べて平均的な水準だった。特に天候の影響などもなく、農業、林業、水産業ともに安定した成長を維持している。

工業と建設業のGDP成長率は8.92%と高水準の伸びを維持した。輸出の好調によって加工製造業のGDP成長率が9.73%と伸びたほか、建設業のGDP

成長率も8.36%と伸びている。建設業の好調は、FDI（Foreign Direct Investmentの略で海外資本のベトナム国内への直接投資を意味する）がリードする産業用不動産開発の拡大、所得水準向上に伴う住宅投資の回復、政府主導のインフラ投資の増加などが牽引役となったようだ。

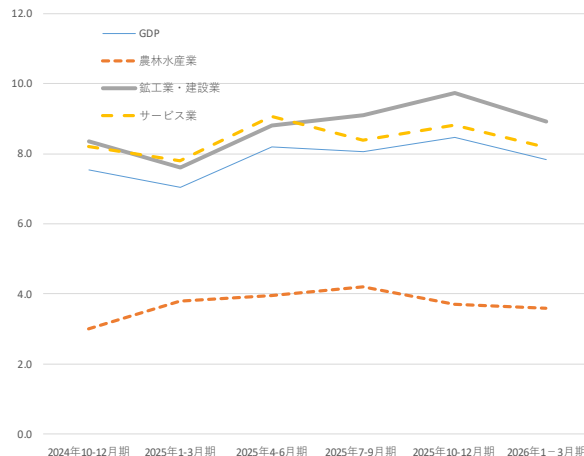
サービス業のGDP成長率は8.18%だった。小売・卸売業のGDP成長率が9.62%と大きく伸びてサービス業全体のGDP成長率を牽引している。活発な生産活動に裏打ちされた良好な雇用及び所得環境が国内消費の拡大を後押ししているようだ。

足元のベトナムでは、地政学上の優位性を活かした輸出の増加に牽引される形で生産や設備投資が拡大し、それが良好な雇用及び所得環境に繋がり、個人消費や住宅投資を拡大させるという経済成長の好循環が引き続き力強くワークしているといえるだろう。

## 《好循環の持続性》

この好循環の持続性は高いとみている。その理由として、グローバルIT企業のベトナムへの生産拠点の移転や生産拡大の動きが続いていることが挙げられる。米中対立が続く状況のもと、ベトナムの地政学上の優位性がこの動きの背景にある。中長期的には、部品や半導体のベトナムでの製造も視野に入れ、ベトナムをサプライチェーンの要にすることを検討する企業もあるようである。また、ベトナム政府も半導体投資への支援やインフラ整備に力を入れるなど、この動きを支援する姿勢を明らかにしている。足元のイラン情勢のように短期的には様々なリスクがあるだろうが、確度の高い生産拡大の見通しがあるならば、中長期的にベトナムの高成長を支える好循環の持続性は高いと考えることができるだろう。

図表1 実質GDP成長率の推移 (%)



注 2025年10-12月期及び2026年1-3月期は推定値

出所 ベトナム統計総局のデータをもとに当社作成

## ニューズ証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20260409

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。